



Title	デザイン理論 43号 投稿規程/執筆要領/編集後記/ 奥付
Author(s)	
Citation	デザイン理論. 2003, 43, p. 92-93
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53206
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「デザイン理論」投稿規程

1. 内容：デザインに関する未発表の論文、研究報告等。
2. 投稿資格：本会会員
3. 採択：採否及び掲載号については編集委員会が決定する。
4. 査読：学術論文については、編集委員会が査読者2名に依頼する。査読結果は編集委員会が本人に通知する。結果は、(A)無条件採用、(B)条件採用、(C)不採用とする。
査読期間は2ヶ月程度とする。
5. 執筆要領：別に定める。

昭和37年11月11日改正、昭和60年11月8日改正、
平成2年11月10日改正、平成6年7月9日改正、
平成14年11月9日改正

6. 提出期限：基本的には随時。ただし、学術論文は、査読のため、5月春号掲載希望は、1月15日、11月秋号掲載希望は、6月30日を〆切りとする。
学術論文以外は、これは投稿予告の期限で、実際の投稿期限は、それぞれ3月31日、8月31日となります。
7. 提出先：意匠学会編集委員会
なお、以上の規程は、平成14年11月9日より発効する。

「デザイン理論」執筆要領

平成6年6月4日 編集委員会決定

1. 原稿：

原稿は400字詰め横書原稿用紙に横書きとする。

ワープロで作成する場合は、A4大の紙に1行40字、1頁30行程度で作成すること。査読論文の場合は最終原稿とともに、また、研究報告等は原稿提出時に、フロッピー（機種、ソフト等を明記）も提出すること。いずれの場合も、提出に際しては、コピーをとって手元に保存すること。

また、所定の割付用紙に割り付けを行なって、原稿とともに提出すること。割付用紙は必要に応じて各自コピーすること。

2. 原稿の分量：

分量は学術論文と研究報告はともに、図版、図表、注などすべてを含めて、刷上りで、14頁以内とする。(400字詰原稿用紙では約45枚である)。紙上発表は8頁以内、発表レジメは2頁とする。

3. 原稿の構成：

原稿には、表紙、本文、注、および学術論文と研究報告には欧文（原則として英文）

要約、キーワード、目次を付すこと。

表紙には、表題、著者名（ふりがな付き）、所属機関名を和文と欧文（原則として英文）で書くこと。

欧文要約は、刷上り1頁とする。語数は約200語。必ず、タイプライターまたはワープロで作成すること。また、できる限り、当該言語を母国語とする人の校閲をえておくこと。

キーワード（和文および英文）は、それぞれ5語以内とする。

4. 図・表のレイアウトなど：

図版はモノクロームとし、位置の指定、大きさ、レイアウト、必要なトリミングなどはすべて執筆者が行なうこと。レイアウトなどには学会指定の割付用紙で行なうこと。

図版などの著作権の問題があると思われる場合は、執筆者自身が事前に許可をとっておくこと。当学会は著作権についての責任は負わない。

編集後記

今年の夏は、イギリスに行くことができました。教区教会の調査に同行する形でしたが、田舎道のドライブを存分に楽しみました。有料道路がなく、交差点に信号がほとんどなく、ラウンドアバウト（ロータリー交差点）も最初は戸惑いましたが、結構楽しく、合理的だと感心しました。

ぜひ見たいと思っていたデザイン・ミュージアムには、納得する面と失望を感じました。旅行案内書などには、「日用品のデザインの変遷をビジュアルに展示」と案内してあるのですが、ロンドンで活躍している日本人のデザイナーに聞いたところでは、最近では、展示方針が変更されてきているようです。歴史的な変遷より、現役のデザイナーの仕事を紹介する展示に力点が移ってきてているようです。今回訪れた時も、常設展示のスペースより、グラフィックデザイナーとプロダクトデザイナーの回顧展に大きなスペースが与えられていました。デザインの展覧会を企画するキュレーターも育っているとのことで、企画展に重点が移るのも当然かという気もしましたが、常設の歴史的展示の充実も期待したいところです。この点では、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館に、家具を中心とした20世紀のコレクションが結構充実していました。

デザイン・ミュージアムは、未だ課題の一つで、日本での充実に学会が取り組めないか、考える必要がありそうです。デザイン研究の方は期待できそうです。秋季号も十分な論文が集まりました。今後は、投稿論文が多くて、次号送りという事態も予測されます。ただ、書評や展覧会評などの投稿が少なく、この点の充実を、会員の皆様にお願いしたいと思います。

（文責：渡辺 真）

編集委員

足立裕司 太田喬夫 櫛 勝彦
榎原吉郎 佐藤敬二 並木誠士
橋本英治 藤田治彦 藤 享
横川公子 渡辺 真（委員長）

デザイン理論 43号

*Journal of the Japan Society
of Design, 43/2003*

発行日 2003年11月15日

発行 意匠学会

事務局 〒606-8585

京都市左京区松ヶ崎御所海道町

京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科意匠学教室内

TEL 075-724-7603

FAX 075-724-7629

発行者

意匠学会 編集委員会

事務局 〒610-1197

京都市西京区大枝沓掛町13-6

京都市立芸術大学美術学部第3研究室群合同研究室内

TEL/FAX 075-334-2255

編集責任者 渡辺 真

印刷所 株式会社北斗プリント社